

非鉄金属市況と需給動向

2022年6月(銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族)

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

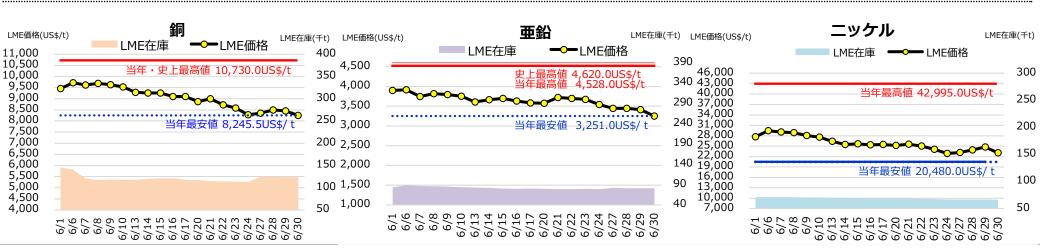
おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。 本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。 なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいますようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

世界経済後退による需要減退懸念と米ドル高、供給不安を上回り全面的に価格を圧迫、3鉱種下落傾向

■6月市況動向

- ① 世界経済後退懸念が価格を支配、月を通して3鉱種ともに下落傾向: 当月、銅は9,455.0US\$/t、亜鉛は3,896.0US\$/t、二ッケルは27,710US\$/tで始まった。ユーロ圏CPIが対前年同月比8.1%増となりECBが0.25ポイント利上げを表明したほか、5月米CPIが対前年同月比8.6%と40年ぶりの高値および5月米PPIが同比10.8% 増となりFRBが0.75ポイント利上げを行う、スイス中銀が15年ぶりに0.5ポイントの利上げを行うなど、世界各国経済指標がインフレを示唆し、インフレ抑制のため経済成長を犠牲とした利上げが相次いだ。加えて6月製造業PMI速報値が米国は52.4、ユーロ圏は52.0と2年ぶりの低水準となるなど、弱い景気動向指標が見られた。20年ぶりの米ドル高も影響し、期末の価格は、銅が8,245.5US\$/t、亜鉛が3,251.0US\$/tと当年最安値を付け、ニッケルも22,900US\$/tと下落して越月した。
- ② 中国上海におけるロックダウン解除、価格に対する影響は限定的:1日、上海では2か月間続いたロックダウンが解除された。低迷する経済梃入れ景気刺激策への期待が高まって月初は価格が上昇し、亜鉛・ニッケルは6日に3,913US\$/t、29,400US\$/t、銅は8日に9,692US\$/tとなる当月最高値を付けた。5月の経済指標は、鉱工業生産が対前年同月比0.7%増(4月:2.9%減)、小売売上高が同比6.7%減(4月:11.1%減)となったほか、工業生産が対前年同月比0.7%増、貿易黒字が対前月比54%増と予想以上の回復を示し、小幅な価格上昇も散見された。一方、依然ゼロコロナ政策は続いており、断続的に強化される規制が市場を混乱させ経済回復を阻害するという見方が大半であったため、大幅な価格上昇材料とはならなかった。
- ③ 下落傾向はあるも供給不安材料は多く、依然価格は高止まり: 当月見られた価格下落傾向は、需要減退懸念が供給懸念を上回っていたためという見方が強い。潜在する供給不安と低水準の在庫により、未だ価格は高値を推移している。銅に関しては、5月31日にAntofagasta社で地下パイプライン漏水があり6月27日までチリLos Pelambres製錬所が操業停止していたこと、住民との衝突により11日までペルーLas Bambas鉱山が操業停止していたことに加えて、6日にチリCodelcoが環境規制によりVentanas銅製錬所を操業停止したことに対して22日に労働者のストライキが発生している。亜鉛に関しては、在庫が一時2年ぶりに80千tを下回ったほか、15日にはNord Stream1パイプラインにおけるロシアからの供給が削減され、欧州での電力価格が再上昇した。



需給動向 -銅-

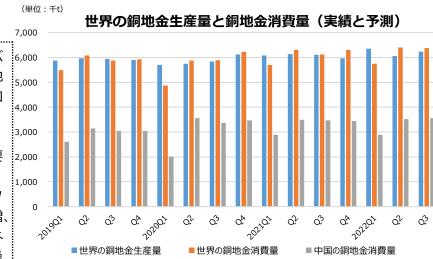
2022年1~4月鉱石生産量はDRコンゴ、インドネシア、ペルーで増産、需給バランスは95千tの供給過剰に

■需給動向

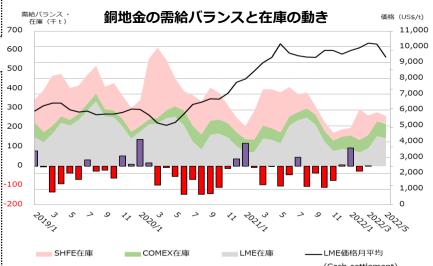
- ① **国際銅研究会(ICSG)、2022年1~4月銅需給実績発表:**2022年1~4月の世界銅需給バランスは<u>95千tの供給過剰</u>となった。鉱石生産は7,007千t(対前年同期比:2.9%増)、地金生産は8,443千t(同比:3.4%増)、地金消費は8,348千t(同比:2.2%増)と全て増加傾向である。
- ② チリで鉱石生産量減少:鉱石生産量について、チリで対前年同期比7.4%減となった。 Covid-19感染拡大に伴う労働力不足やチリ中部の干ばつの影響、粗鋼品位の低下などが要 因としてあげられる。
- ③ DRコンゴ、インドネシアで鉱石生産量大幅に増加:一方鉱石生産量が増加したのは、アフリカDRコンゴやインドネシア、ペルーであり、それぞれ対前年同期比31.3%増、40.0%増、2.8%増であった。DRコンゴはKamoa-Kakula銅鉱山の順調な操業による増加、インドネシアはGrasberg銅・金鉱山の地下開発による増加であった。ペルーでは、2021年7月に操業開始したMina Justa銅鉱山やAntamina銅鉱山における生産量増加があったが、Las Bambas銅鉱山やCuajone銅鉱山における地元住民のデモによる生産停止が減産に影響した。

■企業動向

- ① CODELCO (チリ): Ventanas製錬所において、地域住民の亜硫酸ガス中毒被害発生により操業を停止(6日)、設備の老朽化により閉鎖を決定した(17日)。一方地域住民は操業維持の投資を求めてストライキを開始したが(22日)、CODELCO社と協議の結果、製錬所の機能強化を図ることに合意し、ストライキを終了した(23日)。
- ② Antofagasta社 (チリ): Los Pelambres銅鉱山において、パイプラインで漏出事故が発生し、出荷を停止した(5月31日)。事故に関して地域住民による道路封鎖があり復旧作業が遅れたが、住民との合意を得て、段階的に出荷が再開された(27日)。同社は、2022年銅生産計画量を66~69万tとしていたが、事故により下限を見込むと発表した。
- ③ MMG社 (ペルー): 4月下旬から操業停止中のLas Bambas銅鉱山について、地域住民が30日間抗議活動を中断し協議を行うことに合意したため、操業を再開した(11日)。



(出典:調査会社による結果を引用)



※需給バランスのデータは、公表されている2022年4月まで反映。

(出典:ICSG及び調査会社による結果を引用

需給動向 -亜鉛-

ペルーで鉱石大幅減産もロックダウンが続く中国における需要減退により需給バランスは供給過剰へ

■需給動向

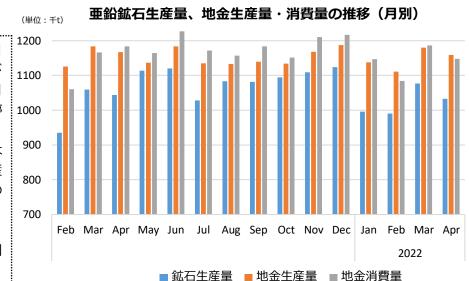
- ① 国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)によると、2022年4月の鉱石生産量は1,032.5千t(対前月比3.9%減、42.1千t減)と対前月比で減少しており、ペルー、中国、インドでの減産が影響した。ペルーのエネルギー鉱山省によると、ペルーの4月亜鉛生産量は対前年同月比23.6%減と、2020年5月以来の低い月次生産量となった。またPerkoa鉱山の操業停止が続く、ブルキナファソにおける減産も影響した。
- ② 2022年4月の地金生産量は1,158.6千t(対前月比1.2%増、13.2千t増)、地金消費量は 1,147.7千t(対前月比2.5%減、29.4千t減)で10.9千tの供給過剰となった。地金生産 量は、中国、フランスで増加した。地金消費量は中国、韓国で減少しており、上海での ロックダウンにおける需要減退が影響している。
- ③ 2022年1~4月の亜鉛地金需給バランスは、13千tの供給不足となった。地金生産量は、電力高騰を受けた欧州のほか、中国、ブラジル、カナダで減産した。地金消費量は中国や日本で減少した一方、イタリア、韓国で増加した。

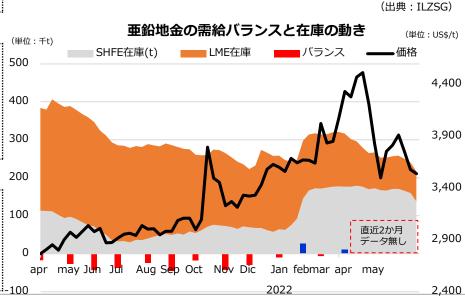
■関連動向

- ① 世界の自動車生産台数:各種報道によると、2022年4月は5,405.7千台で、対前月 (7,306.0千台) 比で26.0%減少した。中国(約1,000千台)の減産が大きく影響した ほか、米国、フランス、タイ、日本でも減産した。
- ② **日本の亜鉛めっき鋼板生産量:** (一社)日本鉄鋼連盟によると、2022年4月は639千tで、 対前月(770千년) 比で17.0%減少した。

■企業動向・その他

- ① Minera Volcan社 (ペルー):精鉱輸送トラックがChillon川に転落、亜鉛精鉱35tが流出(13日)。
- ② **DLA Strategic Minerals (米)**: New YorkにあるScotiaの備蓄用亜鉛の買い手を募集(14日)。





需給動向 -ニッケル-

インドネシア、ニッケル輸出規制の強化を検討、仏・Eramet社は尼HPALのFS完了を報告

■需給動向

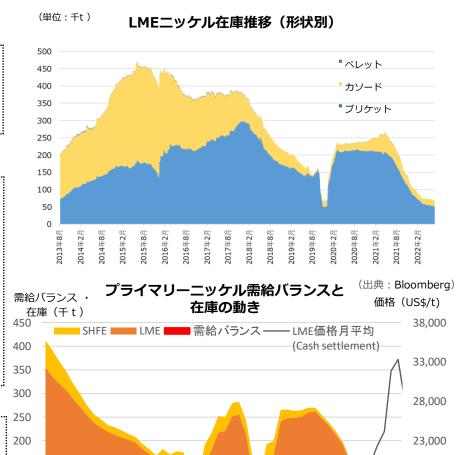
- ① プライマリーニッケル4月需給バランス:国際ニッケル研究会(INSG)によると、2022年4月の世界ニッケル需給バランスは200tの供給不足となった。
- ② **プライマリーニッケル2022年1~4月需給バランス**: INSGによると、2022年1~4月プライマリーニッケル生産量は934.8千t、消費量は942.7千tで7.9千tの供給不足となった。

■関連動向

- ① 尼投資相、品位50%以下のニッケル製品の輸出禁止について言及: Bahlil Lahadalia投資相は、インドネシアは付加価値を高めるため、品位50%以下のニッケル加工製品の輸出を禁止すると述べた。また同相は、政府は自動車用バッテリーのエコシステムのためニッケルに注力するとした。(5月23日)
- ② **尼、電池材料に輸出税を検討**: Bahlil Lahadalia投資相は、国内電池製造業の発展を促すため、ニッケルの電気自動車(EV)電池材料の輸出税を検討していることを明らかにした。(5月25日)
- ③ **英国、Nornickel社CEOを制裁対象に**:露Nornickel社のCEO兼株主であるVladimir Potanin氏が英国の制裁対象となった。同氏はNornickel社の株式のうち36%を保有している。(29日)

■企業動向

- ① Vale(伯):加QC州の硫酸ニッケル工場のPFSを完了した。(9日)
- ② **Glencore (スイス)**: 豪Pacific Nickel社とソロモン諸島のKolosoriニッケルプロジェクトについて、22mUS\$の融資とオフテイク契約に合意。(15日)
- ③ **Glencore (スイス)**: 5月27日に加Raglanニッケル鉱山のストライキが発生したが、一部 操業を再開した。(16日)
- ④ **Eramet(仏)**: 仏Eramet社と独BASF社は、北Maluku州のWeda Bay工業団地(IWIP)に建設予定のHPAL(高圧硫酸浸出)複合施設のFSを完了した。(21日)



Jul-20 Oct-20

lan-20

(出典:INSG及びBloomberg)

Jul-2

18.000

13.000

8,000

150

100

50

Apr-19

需給動向 -金・白金族-

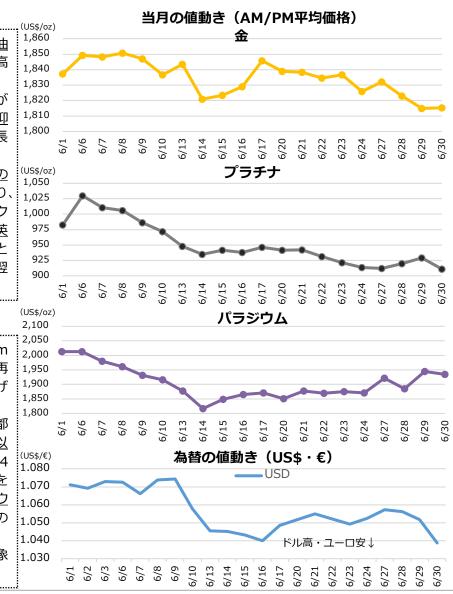
金、対露追加制裁、各国の利上げと景気後退懸念により1,800US\$/oz台前半の方向感乏しい展開に

■金市況動向

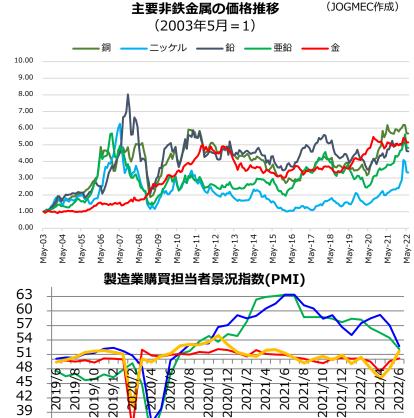
- ① 欧米の利上げでドル高が進行、下落: 当月1,837.3US\$/ozでスタート。EUが2日、露産石油の輸入禁止を含む追加制裁を正式に合意したことで、翌営業日の6日に上昇、8日に当月最高値の1,850.7US\$/ozをつけた。9日、欧州中央銀行(ECB)が0.25%の利上げ決定を発表、10日に発表された米消費者物価指数が対前年同月比8.6%増と高い伸び率を示し、ドル高が進行し下落した。更に14日発表の米生産者物価指数も対前年同月比10.8%増、インフレ抑制のため米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げペースを加速するとの観測が強まり、米長期金利が上昇しドル高が進行、14日、1,821.0US\$/ozまで下落した。
- ② 金利上昇圧力と景気後退リスクで方向感乏しく:15日、FRBがインフレ抑制のため0.75%の 大幅利上げを決定すると、英国、スイス等にも利上げが拡大、世界経済の減速懸念が広まり、 17日に1,850US\$/oz近くまで値を戻した。その後は、実質金利上昇圧力と景気後退リスク により方向感に乏しく、ほぼ横ばいで推移した。27日、G7(主要7カ国首脳会議)で日米英 加が露産金の輸入禁止を発表したことで同日上昇したが、生産国が分散され影響は限定的と の見方から、翌日から再び下落に転じた。29日、当月最安値の1,814.3US\$/ozをつけ、翌 日1,815.3US\$/ozで越月した。

■白金族(PGM)

- ① プラチナ市況: 当月982.5US\$/ozでスタート。英Elizabeth II世即位70周年を祝うPlatinum Jubileeを挟み、翌営業日の6日に当月最高値の1,030.0US\$/ozをつけたが、中国のコロナ再 拡大による都市封鎖再開の警戒感による景気後退懸念、米FRBによるインフレ抑制の利上げ 継続意向で下落基調が継続、当月最安値の911.0US\$/ozで越月した。
- ② パラジウム市況: 当月最高値となる2,013US\$/ozでスタート、新型コロナ感染拡大により都市封鎖を行っていた中国・上海市は1日に事実上解除、北京市も規制を緩めていたが、9日以降北京市内の繁華街を中心にクラスターが拡大したことで更なる経済の停滞が懸念され、14日、当月最安値の1,816.5US\$/ozをつけた。しかしその後は中国の経済活動再開等から値を戻した。27日、G7で露産金の輸入禁止を発表、翌28日から即日実施したことで、パラジウムへも拡大されるとの警戒感から29日に対前日比60US\$/oz上昇し、当月最高値の1,944.5US\$/ozをつけ、1,934.5US\$/ozで越月した。
- ③ Implats (Impala Platinum) 社 (南ア): Rustenburg、Marula両鉱山の従業員を対象とした、AMCU (鉱山労働者・建設組合連合) との5年間の賃金契約に合意。(27日)



		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物	LME現物	LME現物	AM・PM平均	AM・PM平均	AM・PM平均
		(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/oz)	(US\$/oz)	(US\$/oz)
本報告期	期初	9,455.0	3,896.0	27,710.0	1,837.3	982.5	2,013.0
	期末	8,245.5	3,251.0	23,100.0	1,815.3	911.0	1,934.5
	最高値	9,692.0	3,913.0	29,400.0	1,850.7	1030.0	2,013.0
		6月8日	6月6日	6月6日	6月8日	6月6日	6月1日
	最安値	8,245.5	3,251.0	22,900.0	1,814.8	911.0	1,816.5
		6月30日	6月30日	6月24日	6月29日	6月30日	6月14日
	平均	9033.1	3,644.0	25,837.5	1,834.6	950.9	1,906.1
先物 (6月30日)	3か月	8,245.0	3,232.0	23,030.0	_	-	_
	Dec 23	8,245.0	3,033.0	23,350.0	_	_	-
	Dec 24	9,240.0	2,833.0	23,575.0	_	_	_
2022年 (当年)	期初	9,660.0	3,602.0	20,730.0	1,810.3	969.0	1,881.0
	期末	8,245.5	3,251.0	23,100.0	1,815.3	911.0	1,934.5
	最高値	10,730.0	4,528.0	42,995.0	2,023.0	1,150.0	3,177.0
		3月7日	4月19日	3月7日	3月8日	3月8日	3月7日
	最安値	8,245.5	3,251.0	20,480.0	1,789.2	911.0	1,816.5
		6月30日	6月30日	1月6日	1月28日	6月30日	6月14日
	平均	9,760.7	3,832.3	27,746.5	1,874.5	995.0	2,216.4



020/

-米国

中国 (財新)

01

欧州

中国(国家統計局)

36

33

6月の製造業PMI(IHS Markit社発表)は52.7(前月:57.0、予測:52.4)と、前月から下落した。6月非農業部門雇用者数は前月比37.2万 米国経済 人増(前月:39.0万人増、予測:25.0万人増)と、前月を下回った。失業率は3.6%(前月:3.6%、予測:3.6%)と、前月から横ばいに推 移した。 中国経済 6月製造業PMIについて、国家統計局発表は50.2(前月:49.6、予測:50.4)、財新発表は51.7(前月:48.1、予測:49.3)と、前月から上

欧州経済 6月製造業PMIは52.1(前月:54.6、予測:52.0)と、前月からやや下落した。

昇した。